

自衛隊病院、災害対処拠点、感染症対策強化で 埼玉は海外での戦争の拠点に…!?

入間市、狭山市にまたがる航空自衛隊入間基地は、航空自衛隊最大の輸送拠点です。毎日のように同基地所属のC-1輸送機やT-4ジェット練習機などが離発着訓練などを繰り返す。周辺住民は騒音被害に苦しみ、墜落や落下事故の危険にさらされています。

そのうえいま、基地に隣接する留保地（米軍基地跡地）に、自衛隊病院や災害対処拠点の建設が計画されています。戦争法（安保法制）を先取りする基地の拡張・強化につながるもので、見過ごすことはできません。

自衛隊病院は海外での負傷兵を想定…?

2015年度の防衛予算の資料には、下図のようなイラストがありました。これは、果たして国内で起こる事態なのでしょうか…?

戦争法のもと、海外に派遣された自衛隊が、戦闘行為と一体のものが見まがう任務をも遂行する。そうなれば、「殺し、殺される」リスクも飛躍的に高まります。

自衛隊病院の建設は、自衛隊員が、海外で戦闘で傷つき倒れることを想定したものとされます。

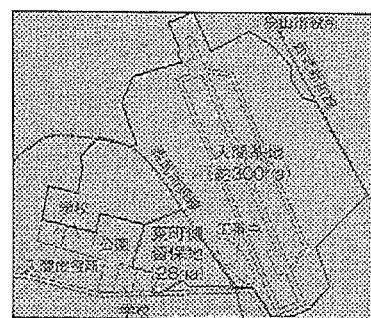
災害対処拠点では 各種訓練・演習もおこなう…?

災害対処拠点は、「空いているときは地元に開放する」といわれています。が、実際には海外派遣を含むすべての自衛隊派遣部隊の集合・編成および部隊演習の場所として使われるもの。「平時」には自衛隊が各種訓練のために使い、「災害時」には1個師団（6～8000人）が野営することを想定しています。市民の利用はあっても、きわめて限定的です。

感染症対策強化は海外展開と不可分…?

2016年度の防衛予算ではエボラ出血熱など「感染症対処能力の向上」が書かれています。防衛医大でおこなうとしています。海外に派遣された自衛隊員が、得体の知らないウイルスに感染したり、未知の病に冒されたりすることを想定したものとされます。自衛隊の海外展開と密接不可分なものと言わざるをえません。戦時中、満州（中国東北部）で防疫給水活動をおこなった731部隊を想起させるものです。

「戦争する国」づくりと一体の
基地の拡張には反対です!



安保法制の発動許すな！入間基地拡張ストップ！緑の森を守ろう！11.20 埼玉県集会実行委員会
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 2-3-10 黒澤ビル3階 埼玉県平和委員会内 電話・FAX048-711-4434